

第23号

会報 めいおんの会

発行 平成30年12月10日

「めいおんの会」(名古屋音楽大学出身教員の会)

事務局 名古屋市緑区大清水四丁目522

TEL・FAX (052) 877-1243

発行責任者 会長 百草 薫

故、青山三郎先生を偲んで

名古屋市立南陽中学校長

藤松 真人(S59年卒・5期生)

「だまされた。あはははは。」

入学直後、初めてのレッスンで私が青山先生からいただいたお言葉である。最初のレッスンで曲がいただけると思っていた私は、楽譜を全く用意せず、手ぶらでレッスン室に入った。1年生はグループレッスン。同期の1年生は私の他に4名。全員何冊かの楽譜を抱えていたので不思議に思った。レッスンは始まってたいへん驚いた。みんな、いくつかの曲をほぼ暗譜で弾いていたからである。しかもとてつもなく上手い。自分は今、間違いなく、場違いな世界にいることを実感した。

私は高校2年の4月。授業中に聴いた音楽の先生のピアノに感動し、自分も弾けるようになりたいと、その先生から手ほどきを受けるようになった。とにかく面白くて、毎日、ピアノを弾いているうちに調子にのり、いつしか音大をめざしていた。その間に習った曲はほんの数曲。大学入学当時に弾けた曲は入試の試験曲のみだった。

超が付くほど未熟な私の正体は、すぐに青山先生に見抜かれ、冒頭のお言葉になったのである。しかし、青山先生は私の実態に合わせたレッスンをしてくださった。みんなが1週間で曲を仕上げている中、私だけ最初の週は片手ずつ、翌週から両手というように…。とても丁寧で先生の温もりを感じるレッスンだったので、私は毎日が楽しく、時間を忘れてピアノを弾き続けることができた。その後、青山先生は私を定期演奏会、卒業演奏会、そして読売新人演奏会のステージへと導いてくださったのである。

青山先生がお亡くなりになって、今年で10年になる。先生のご遺言を初めて目にしたとき、私は胸が熱くなった。音楽に関わるものとして、ずっと肝に銘じておきたい。

遺言

音楽を伝えるもの達に

その子がどんなに力不足であっても、やりたいという思いがあるときには、どうぞ見てあげてくださいね。本当に、よろしくお祈りします。

音楽を学んでいるもの達に

もったいないです。本当にもったいないです。もっともっと、学んでください。

—以下省略—

2008年9月2日 召天

平成30年度 役員・参与・顧問 (敬称略) ~よろしくお祈りします~

会長	百草 薫 (名古屋・東丘小トワイライト)	会計監査	中村由美子 (名古屋・宮中教諭)
副会長	川合 恒之 (名古屋・山田中校長)	参与	佐藤 恵子 (名古屋音楽大学長)
庶務	藤松 真人 (名古屋・南陽中校長)	同	松下 雅人 (同音楽学部長)
同	塚寄 崇史 (名古屋・守山西中教諭)	顧問	吉川 範行 (同教職指導室)
会計	宇佐美ほたか (名古屋・東陵中教諭)		

＝お知らせ＝

来年度は、8月31日(土)、学長 佐藤恵子先生のピアノ・専任講師 上田 仁先生のトランペットの演奏とお話を予定しています。

総会・研修会・懇親会 8月25日(土) 名古屋音楽大学A402(総会)、A403(研修会)、B号館サロン(懇親会)

◆総会では、会則に従い、会長の選出・役員委嘱を行いました。昨年度の事業報告、決算報告並びに本年度の事業計画案、予算案が承認されました。

◆研修会は、「夏のひとときを笛とともに」と題して、元名古屋音楽大学講師の竹内 梓先生を講師にお迎えして行いました。

第1部では、フルートにまつわるお話を交えながら、素晴らしい演奏を聴かせていただきました。お話では、小学校4年生の時に鼓笛隊のオーディションで先生に褒められたことが出会いと伺いました。本当はピッコロがやりたかったが、ご両親にフルートを勧められたことで、今があるとのことでした。また、木製の古楽器も紹介していただき、フルートの歴史についても説明していただきました。さらに、学生に楽器を選ばせるときには、メーカーで選ぶのではなく、ひとつずつ音色を確認するようにアドバイスをされているそうです。そして、いよいよ演奏です。ピアノ演奏家コース3年の岡田清花さんの伴奏で、ドップラーの「ハンガリー田園幻想曲」やプーランクの「ソナタ」など美しい音色と多彩なテクニックによる名曲を、堪能することができました。



第2部では、リコーダー合奏を参加者全員で体験しました。学生時代の集中講義などを思い出しながら、カッチーニの「アヴェマリア」とパッヘルベルの「カノン」に挑戦しました。最初は楽譜を追うのに精一杯でしたが、次第に息を合わすことができるようになりました。リコーダーの響きの美しさに改めて気づくことができた素晴らしい時間でした。演奏中やその後の指導では、「高い音はサミングを使って強く吹くのではなく、軽く吹く方がよい。」や「垂れてくる液体は、つばではなく水分だと思ふ。つばだとすると、息の入れ方が悪い。」など普段の授業につながるお話もいただきました。また、ヘンデルのソナタのうち4曲はリコーダーのものだそうで、リコーダーもきちんとした楽器として扱われていたことも分かりました。

◆懇親会は、B号館1階サロンで行い、講師をしていただいた竹内先生、学長の佐藤恵子先生、学部長の松下雅人先生、教職指導室の吉川範行先生、教職担当の柴田篤志先生にもご参加いただきました。和気あいあいとした雰囲気の中、講師の先生からも研修では話さきれなかったお話を伺うことができました。また、ベテランの先生から若い先生が、指導方法や抱えている課題などについてのアドバイスをもらったり、他地域との違いなどの情報交換をしたりして、有意義な時間を過ごすことができました。

